

各関係機関の長
各病虫害防除員 殿

宮崎県病虫害防除・肥料検査センター所長

病虫害防除情報第3号

果樹の病虫害対策についてとりまとめましたのでお知らせします。
各地域の発生状況を把握しながら適切な防除指導をお願いします。

果樹カメムシ類(チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ)が多くなっています。

- 1 作物名 うめ、もも、すもも、かんきつ類等
- 2 病虫害名 果樹カメムシ類 (チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ)
- 3 発生状況(経過)
 - 1) 管内3か所に設置してあるカメムシ類フェロモントラップへの誘殺数が5月初旬頃から増加している。特に5月第3半旬には、チャバネアオカメムシが都農町①で476頭(平成20.1頭)、都農町②で632頭(平成20.2頭)誘殺された。(図1)
 - 2) 県内5か所に設置してある予察灯において、5月第2半旬に誘殺数が増加している。チャバネアオカメムシは、延岡市で17頭(平成1.4頭)、宮崎市佐土原町で7頭(平成0.4頭)、日南市で6頭(平成0.3頭)、ツヤアオカメムシは、日南市で102頭(平成54.8頭)、宮崎市佐土原町で16頭(平成5.4頭)誘殺された。
 - 3) 前年秋期にカメムシ類の発生が多かった場合、越冬成虫が増え、翌年春期に多発する傾向がある。昨年9～10月の予察灯での誘殺数は、9月中旬に全域でチャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシとも平成より多く誘殺されている。

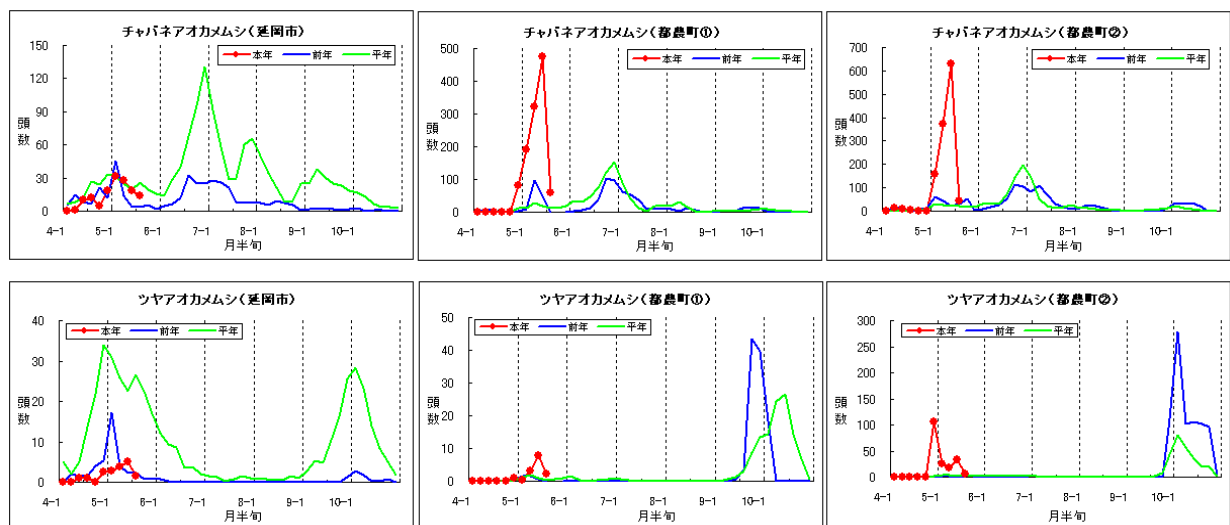


図1 フェロモントラップ誘殺状況

4 防除上の注意

- 1) 今後収穫期となるうめ、もも、すもも等では大量に発生すると品質の低下等の被害を及ぼすため、特に注意する。また、かんきつ類でも幼果を加害し、品質の低下を引き起こすことがあるため、注意を要する。
- 2) 飛来時期や飛来量は園地によって異なるため、園内外の見回りを徹底し、飛来が見られたら速やかに防除を実施する。
- 3) 飛来初期には残効の長い合成ピレスロイド系薬剤やネオニコチノイド系薬剤で防除を行うと効果的である。合成ピレスロイド系薬剤は多用すると天敵等を殺虫し、ハダニ類等の発生を助長するため、連用を避け、系統の異なる薬剤のローテーション散布を行う。
- 4) 果樹園の周囲にみつ源がある場合には、ミツバチや天敵等の有用昆虫への影響を配慮し、薬剤の選択を行う。
- 5) 果実への袋かけや防虫ネットを設置し、被害の軽減を図る。

その他詳細については、病虫害防除・肥料検査センター、総合農業試験場生物環境部、西臼杵支庁・各農林振興局（農業改良普及センター）等関係機関に照会してください。また、農薬散布にあたっては、ラベル表示の確認を十分に行い、農薬使用基準を遵守し、危被害防止に努めましょう。

《連絡先》

宮崎県病虫害防除・肥料検査センター 壹岐

TEL :0985-73-6670 FAX :0985-73-2127

E-mail : byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp

ホームページ : <http://www.jppn.ne.jp/miyazaki>